

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		沖縄市こども発達支援センター		公表日 令和7年4月30日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	1	・必要に応じて ・登園人数によって部屋を分けたりした	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	1	・朝のミーティングでクラスサポートをお願いしている	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	4	・状況に応じて利用できる ・自由遊びのおしまい時にはついたてを立ててスペースを区切ることで次の活動へ切り替えを促している ・活動によっては広過ぎる場合は、子ども達の活動内容に合わせて、手作りの衝立で仕切ったり工夫している。 ・視覚支援を行っている	・室内の階段が無く、エレベーターを待たないと行けない時がある
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	5	・トイレにヒーターを置くなど対策している。 ・施設も古くなっているが、定期的に清掃員や職員がこまめに清掃を行なっている。 ・カビの付着を防ぐため、除湿器の設置及び防カビ工事をを行い改善に努めている。	・カビ対策 ・カビがひどい ・カビや埃が溜まりやすく、常に除湿機の稼働が必要 ・トイレの個数が少ない ・収納が少ない ・冬場の底冷えがひどい ・冬に床が冷たいです。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	1	・自由遊びのおしまい時にはついたてを立ててスペースを区切ることで次の活動へ切り替えを促している ・活動によっては広過ぎる場合は、子ども達の活動内容に合わせて、手作りの衝立で仕切ったり工夫している。 ・視覚支援を行っている	・室内の階段が無く、エレベーターを待たないと行けない時がある ・今後、車椅子の利用者も受け入れる場合、トイレやそれまでの動線が狭い ・トイレの数が少ない
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10		・活動ごとに毎回振り返る時間をつくり次回の改善点につなげている。 ・活動や業務に対する振り返り、報連相、改善のための話し合いをよくしている。 ・参加できない職員には会議録を回覧している	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		・職務会を設けている ・結果を所長から聞く事ができている	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		・職務会を設けている ・個人面談や日々の相談。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	5	・その都度職務会を設けている	・第三者による外部評価の導入を検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		・就業時間内に開催されている	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10		・各専門職員と情報交換を行い内容を検討している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		・各専門職員と情報交換を行い内容を検討している。ケース会議等で意見を出し合い内容を検討している	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		・その都度振り返りを行い次回に活かしている	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10		・日々振り返りを行っている	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10		・その年の子どもの姿に合わせて保育内容などをその都度話し合いをし計画している	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		・子どもの姿に応じて内容を検討している ・子どもの姿に合わせて柔軟に活動内容を変えている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	10			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10		・登園人数、活動内容、個別対応など必要事項を話し合っている ・事前にクラスで話し合った内容を朝のミーティングで職員に伝える	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10		・活動後には毎回振り返りをしている	

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		・記録に残している	
	23	定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		・支援計画書の切り替えに合わせてその都度聞き取りをし、見直しをしている	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	1		・相談員さんがモニタリング月を把握していない時がある 関係者との情報を密にとり連携を図っていきます。
関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	1		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10		・相談員を通して、連絡を取り合い見学の受け入れ、情報の共有を行い連携を図っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	8	2	・親子通園事業所等との連携を図り、研修や情報交換の機会をもち、療育に関する質の向上に努めている。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	8	2		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	8	2	・担当になった時に参加している	・会議担当担当者から情報共有をしっかりと行う
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7	3	・交流保育、見学等は移行前に保護者の意向を確認し、個別で行なっている。	・地域の保育園に在籍している子が多くいる。 ・全体での交流は、今後の課題である。 ・地域の保育所等や施設との交流をもつ機会を検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		・場面に応じてその都度声かけしている	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10		・毎月、ペアレント、親勉強会を開催し、参加を呼びかけている。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	10		・交付する際には丁寧に説明を行い、保護者が納得してから交付している。 納得できない場合は再検討している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		・日頃から、声かけ困り感を確認している。 ・直ぐに助言出来ない場合は、所長や専門職、職員に相談して返答している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	10		・父母会は設けていないが保護者同士や兄弟の交流になる機会はある ・行事に招待し、交流を図る。 ・保護者間の繋がりの方は、卒園児交流会、卒園児保護者の講演会を開催している。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	3	・個人情報保護もあり、SNS等には載せていない。	・ホームページの運用がうまくできていない。ホームページを周知するとともに活動の目的や内容等がわかりやすいよう工夫していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		・研修に参加し、改めて見直し対応している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	8	・家族、親族等は招待している。	・地域との交流は、今後の検討課題。→地域の方に参加してもらえるような行事の検討を行う。
非常時等の	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	1	・必要に応じた情報開示を行っている	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		・避難訓練の定期開催を行っている	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10		・アセスメントシート、個別支援計画書にも記載し、職員間で情報を共有	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づき対応がされているか。	10		・アレルギーがある子は医師の指示書のコピーを提出していただいている。 ・アセスメントシート、個別支援計画書にも記載し、職員間で情報を共有 ・調理担当との詳細にメニューをその都度、検討している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10			

対 応	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	1		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		・ヒヤリハットがあった場合は記録し回覧している。 ・目撃、対応した職員が早急に報告書に記載し、情報を職員間で共有する。 ・環境の改善も早急に行う。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	1	・虐待防止の研修を受けている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	5	・身体拘束をする場面は今までにない。 ・身体拘束は行わない。	・身体拘束について再度、職員間で共通認識を図ると共に、保護者へも丁寧に説明していく。※親子通園であることから基本的には身体拘束を行わない。